

②	重点目標	1) 教育活動及び諸校務の適正かつ円滑な運営を図る。 2) 危機管理意識の高揚 3) 地域や関係団体との連携を深める。 ・ P T A との連携 ・ 同窓会との連携		P	
③	現 状	・新しい校務支援システムが始まったこともあり、より適正に運営を図るための調整が必要である ・危機管理意識については、全体的な啓蒙が必要である ・P T A については、保護者、教員ともに必要性を感じていないところが見受けられる			
④	具体的な目標	・行事や職員会議等の調整をはかる ・P T A の新しい会則での運用			
⑤	目標達成のための方策	・分掌間の連携、月毎の学校行事等の調整 ・学校要覧、分掌経営計画、校内規定集の整備 ・危機管理意識の啓蒙 ・関係団体との連携強化（50周年を見据えて） P T A 活動の推進と充実 同窓会の組織強化と活動の促進			
⑥	具体的な取組状況	・地震に関する新しい防災訓練の実施 ・各分掌等の行事の調整をより綿密に行う ・P T A の運営の簡素化			D
⑦	達成状況	・地震の防災訓練はまだやっていないが、能登地震を教訓に、より教員の啓蒙が必要と思われるので、そこを含めて実施したい。 ・各分掌等との行事の調整は、各主任との話し合いで、なんとかうまく行えていると思う。 ・新しいP T A 会則の運用を行い、概ね簡素化には成功した			
⑧	自己評価	（評価） A	（根拠） 目標としたほとんどのことが達成できているため	C	
↑ 評価基準 ↓ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない					
⑨	学校関係者評価と意見	（評価） A	（意見） ・ほぼ計画通り達成している。 ・地域の避難所になっていることもあり、今後も危機感を持って防災訓練に取り組んでもらいたい。 ・ほとんどの項目が肯定的で票方とても高いが、保護者のP T A 活動や防災についての否定的なのが目立つ。	C	
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	P T A 活動に関しては、どの学校でも参加が少ないということが問題となるが、保護者は別に学校に興味がないということではない。こちらから、いろいろと情報を共有することで十分にその活動を補助できる。防災に関しては、何かあったときに保護者とどう連絡を取るかなど連携をはかる必要があるため、来年度はそちらを考慮したい。			A

②	重点目標	・学ぶ意欲を喚起させるため、学習環境の質的向上を図る。 ・基礎的・基本的学力の定着、学習に向かう姿勢の確立に向けた取組を推進する。		P
③	現 状	昨年度行った調査では家庭学習時間や課題の提出状況から学習に向かう姿勢が十分とはいえない部分があり、全体的に授業の内容が学力の向上に結びついていない。		
④	具体的な目標	・「総合的に学ぶことが『楽しい』『役に立つ』『やる気が出る』と思える授業ですか」の項目の数値を上げる。昨年度3.66→3.70		
⑤	目標達成のための方策	・ICT機器を効果的に活用する。 ・授業のユニバーサルデザイン化を促進する。 ・「指導と評価の一体化」に向けた学習評価を行う。 ・探究活動、資格取得活動を充実させる。		
⑥	具体的な取組状況	・授業評価アンケートの項目を見直した。 ・授業評価アンケートの項目を年度の早い段階で提示した。 ・授業改善のリーフレットを作成し、授業改善旬間) ・UDとICTについてCanDoListを策定した。		D
⑦	達成状況	・授業評価「総合的に学ぶことが『楽しい』『役に立つ』『やる気が出る』と思える授業ですか」の項目の数値 → 3.66		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) ・授業のUD化やICT化は進んでいるが、学習意欲の向上に結びついていない。授業アンケート→3.66 (±0)	C
↑ 評価基準 ↓ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ・ICT機器を活用して先進的な授業を行っていた。 ・授業評価項目の見直しについて賛否 ・学ぶ意欲の向上には家庭の力も必要。家庭学習時間	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・学ぶ意欲の向上について不十分であったことから「指導と評価の一体化」について周知徹底を図り、生徒の学習への意識付けを組織的に行うようにする。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

生徒指導部

②

重点目標

・他者を尊重しつつ、主体的に考え行動できる生徒を育成する。

③

現 状

・他者を尊重するという意識は芽生えつつあるが、自分本位の言動により、人間関係をうまく構築できない生徒が見受けられる。また、自発的に行動することなく、何事にも受け身の生徒が多い。

④

具体的な目標

・自分たちの意見をまとめ、仁賀保高校の一員として積極的に学校を作り上げていくことのできる生徒を育てる。

⑤

目標達成のための方策

・生徒心得の見直しなど、生徒が主体的に関わることができる体制を構築し、生徒自身に学校活性化の当事者意識を持たせる。
・生徒の要望や意見をまとめ、生徒の意見を反映させることにより、理にかなった生徒指導を行う。

P

⑥

具体的な取組状況

・生徒心得に関して生徒アンケートを実施し、生徒心得改正への道筋をつけることができた。
・集会等で相手を思いやることの意義や大切さを呼びかけ、他者を尊重する意識を高揚させた。
・昨年に引き続きタブレットを使っていじめアンケートを実施し、現状把握と生徒理解に活用した。

⑦

達成状況

・生徒アンケートを反映させた、生徒心得の改正を実施することができた。

D

⑧

自己評価

(評価)

B

(根拠)

・思慮が浅く自分本位の考えで行動しがちな生徒がまだみられ、他者を尊重する意識の定着には至っていない。

C

↑

評価基準

↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない

C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨

学校関係者評価と意見

(評価)

B

(意見)

・生活面に関しては、家庭でのルール作りが不可欠である。学校では今後とも根気強く指導してほしい。

C

⑩

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策

・他者を尊重する意識を育むため、他者の状況や感情に理解を示し共感することを、あらゆる場面において気付かせる。
・生徒心得のみならず、整容規定などのルール作りにも生徒を参加させて当事者意識を培う。

A

② 重点目標	1. 基礎学力の定着を図り、個々の進路希望達成に必要な発展的能力や学力を伸長する。 2. 3年間を見通した進路指導計画を作成する。 3. 自立心を育成し教員と就職支援員が連携しキャリア形成を支援する。
--------	--



③ 現 状	1. 基礎学力定着度が低い。基本的生活習慣からの指導が必要な場合もある。 2. 早期の進路に対する意識付けの時間が足りないと感じる。 3. 今年から「デジタルアカデミックインターンシップ」として地元企業に受け入れて貰う働きかけを行っている。企業からも理解を戴き、協力体制もできつつあるが、「進路決定に繋がるインターンシップ」と相反する点もある。 4. 4年制大学や医療系への進学希望者に対する指導が学年によって異なっている。（生徒の進路志望の違いもあり、致し方ない面もあるが）
-------	---



④ 具体的な目標	生徒の希望と適性を見極めた、進路決定率100パーセント達成
----------	-------------------------------



⑤ 目標達成のための方策	1. 朝学習での朝読書や、授業と連携した課題により基礎基本の徹底を行う。機に応じて進路希望に対応した補習を実施する。 2. 進路情報・面談状況を職員が互いに交換しあい、生徒個々に応じたキャリア形成を支援する。 3. インターンシップのあり方について、職員間の共通理解を図る。 4. データや各学年のノウハウの蓄積を基に、3年間を見通した進路指導計画を作成する。早めの進路意識付け、外部人材による講座の充実を図る。
--------------	---



⑥ 具体的な取組状況	1. 各学年部の計画のもと、朝学習の時間を有効活用できた。 2. 学年部と連携し、進路に関する行事を企画・実施できた。また昨年に引き続き、地元の経済同友会を講師に招いて3年生の就職面接練習を行った。 3. デジタルアカデミックインターンシップについて地元企業やハローワークにも説明し、趣旨や体験職種について理解のうえ受け入れて貰った。
⑦ 達成状況	就職・進学共に3年生全員が、ほぼ第一希望で年内に進路決定できた。



⑧ 自己評価	B	・様々な手立てを講じて効果をあげていると考えるが、インターンシップのあり方、進学指導の体制確立にまだ改善の余地がある。
--------	---	---



評価基準

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨ 学校関係者評価と意見	（評価） A	3年生の第一志望をほぼ実現し、年内に決定できたことを評価する。朝学習に関する保護者の認知度を高められると良い。
--------------	-----------	---



⑩ 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	引き続き、生徒の進路希望を達成すべく、生徒の適性を踏まえてのきめ細やかな面談や情報提供を心がける。また確かな学力向上のために、計画的な朝学習や学習課題、個別指導などの方策を各学年部と連携して進めていきたい。
-------------------------	---

P

D

C

A

②	重点目標	・集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 ・集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 ・学校行事や部活動を通して主体性や礼儀、忍耐力を身に付けさせる。		P
③	現 状	・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事さらには部活動、ボランティア活動等へ積極的に取り組むことで、生徒は主体性や協調性を身に付けてきている。部員不足により活動が制限される部が複数ある。		
④	具体的な目標	・集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築きながら、自主的、実践的な態度と礼節を重んじる心を育てる。		
⑤	目標達成のための方策	1 生徒会及び地域の行事・部活動へ積極的に参加する生徒を育成する。 2 自分の考えを述べることができる生徒会、委員会活動の推進を促す。 3 ボランティア活動の自主的な参加を推進する。 4 充実した集団生活の確立をめざすホームルームの経営を促進する。		
⑥	具体的な取組状況	・年間に予定されていた学校行事を、生徒数が減少等いろいろな弊害が生じている中で、工夫してなんとか実施することができた。 ・部活動では、運動部同志の兼部を認めていくことで、活躍できた部が多かった。その中でもeスポーツ部は東北優勝し、全国大会に出場する快挙を達成することができた。 ・ボランティア活動では、以前は各部活単位で行っていた象潟トライアスロンのボランティアを全校で取り組むことができた。		D
⑦	達成状況	・生徒の主体性を尊重しながら学校行事を一段と工夫し、遂行することができた。 ・部活動については、活躍する部等がいくつか出てきた。しかし、全体的に部員不足の部が多くあるので、今後更に対策を講じながら進めていく必要がある。		
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) ・全ての学校行事を生徒の主体性を尊重しながら工夫して実施することができた。それによって生徒が企画力や団結力を高め、集団の一員としての自主的・実践的な態度が成長することができたことは評価できる。	C
↑ 評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ・学校行事、部活等、生徒数が少なく対応が難しい中、知恵を出し合いよく活動できていると思う。部活は、生徒数が少なく仕方ないと思いますが、総合運動同好会などを工夫すればよい方向に進むのではないかと思います。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・学校行事の体育祭、球技大会は来年度一年間かけて、期日や種目、男女比等のより一層の工夫を生徒会とともに進めていきたいと考えている。部活動に関しては、来年度も部活動数を精選をせずに、生徒会の意見も聞きながら、兼部・総合運動同好会のあり方を検討し、少しでも活性化していけるように工夫していきたいと考えている。		A

②

重点目標

- ・保健指導の充実
- ・校舎内外の美化の推進
- ・救急体制の充実と意識向上

③

現 状

- ・新型コロナウイルスについては多くの感染者が出てしまった時期があったがそれ以外は感染者も少なく、全体的には落ち着いた状況である。
- ・学校美化の意識がやや緩んできているように見られる。

④

具体的な目標

- ・新型コロナウイルス等の感染症への対策を、その時の状況を考慮しながら適宜実施する。
- ・日常の清掃活動や大清掃実施時に校内美化の意識付けをする。

⑤

目標達成のための方策

- ・新型コロナウイルス等の感染症に対する対応を、状況に応じて職員・生徒・保護者に周知徹底する。
- ・健康管理に関して、職員及び必要に応じて保護者との連携を密に行う。
- ・校舎内外の美化に努め、生徒の清掃に対する意識の向上を図り、快適な学習環境を保つ。
- ・保健美化委員会と協力して、校舎内外の美化向上に努める。
- ・全職員対象の救命救急講習会を実施する。

⑥

具体的な取組状況

- ・感染者数やウィルスによる症状の変化等その時の状況を鑑み、対応方法については「ほけんだより」等で周知してきた。
- ・生徒の健康管理については、保健室を中心に学年部と連携しながら予定していた健康管理に関わる業務を行った。
- ・大清掃実施時等に校内美化の重要性を周知した。

⑦

達 成 状 況

- ・感染症等への対応の周知徹底、健康管理に関わる業務等状況に応じて概ね計画通りに遂行できた。

⑧

自 己 評 価

(評価)

A

(根拠) 新型コロナウイルス感染症への対応は変化したが、マスク着用、手指消毒等は励行し続け、定着していると思われた。校内外の美化についても特に大きな問題はなかった。



評価基準

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない



C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨

学校関係者評価と意見

(評価)

A

(意見)

感染発生時の情報の周知徹底の要望やマスク着用の継続を望む意見が見られたが、新型コロナウイルス等の感染症の対応については概ね評価されており、全般的に好意的な意見であった。

⑩

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策

新型コロナウイルス等の感染症対策については、今後も日常から適宜指導することで感染症への意識が低下しないように心がけ、状況をみながら必要に応じて情報を周知する等の適切な対応をする。又、環境整備については校舎の老朽化等によって難しい面はあるが、できる限りの対応をして学習環境の向上を図る。

②	重点目標	・不登校・学校不適応生徒への早期対応 ・生徒の自立や自己実現のための支援体制の確立 ・教育相談に対する生徒や職員、保護者の啓発	P	
③	現 状	・中学校や小学校時に不登校になり、高校に入学後もその傾向を継続している生徒が存在している。 ・些細なことから友人関係が損なわれて、孤立したり、問題が発生したりすることが増加傾向にある。		
④	具体的な目標	・特別支援委員会等で情報共有し、カウンセラーや外部の相談機関と連携し、その生徒に必要な対応を提供し改善に向けた対応を行う。		
⑤	目標達成のための方策	・生徒について、全職員や各家庭との情報交換を積極的に行う。 ・各学期に1～2回、特別支援教育校内委員会を開催する。また、内容により教育専門監の派遣を要請する。 ・スクールカウンセラーとの連携を密にする。 ・生徒向けのスクールカウンセラー講話を実施する。 ・1年生を対象にカウンセリング等の教育相談について紹介する。 ・教育相談部員が研鑽に努め、研修成果を効果的に活用する。		
⑥	具体的な取組状況	不登校傾向の生徒の対応が大半であった。本人だけでなく保護者や学年部職員、教育相談部職員等を交えてカウンセラーと面談しても状況が改善するケースは少なく、休学して進路変更をする者も出てしまい、不登校への対応の難しさを感じた。 又、小さな集団内における人間関係の問題が発生してその対応に追われることが度々あり、コミュニケーションの持ち方の指導の必要性を痛感させられた。		D
⑦	達 成 状 況	限られた時間の中でスクールカウンセラーの協力を仰いで指導してきたが、中々問題解決に至らなかったことが多かった。人間関係の問題もきちんと解決するには至らなかったことがあった。		
⑧	自 己 評 価	(評価) B	(根拠) 不登校、人間関係等繊細な悩みを抱える生徒の指導が思うように進まず、中には学校に戻れなかった生徒もあり、この問題の難しさと指導の困難さを感じた。	C
↑ 評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) スクールカウンセラーによるカウンセリングの時間の増加を求める意見もあったが、不登校傾向の生徒が出てしまうのは仕方がない、目標は達成していると思う等の好意的な意見も見られた。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	スクールカウンセラーをもっと活用したいと思うが、色々な面で現実的には非常に厳しく、今後も同様の時間で対応するしかないと思う。特別支援委員会等で情報を共有し、しっかりとした対応を考え、実践していくことを心がけていきたい。		

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

教育情報部

②	重点目標	・生徒の情報機器の管理と情報モラルに対する意識を高める。 ・教員のＩＣＴ活用能力の向上を図り、授業改善に資する。 ・施設、設備、機器を適切に運用する。		P
③	現 状	・Chromebookの目的外利用など指導を要する状況にある。 ・多くの場面でＩＣＴの活用がなされるようになったが、依然、指導者の活用状況や習熟度には個人差がある。		
④	具体的な目標	・Chromebookの適正な使用について、生徒の自覚を促す。 ・授業や特別活動でChromebookを一層活用する。 ・施設、設備、機器を良好な状態に保つ。		
⑤	目標達成のための方策	・他の分掌や教科と連携し、様々な機会を捉えて情報モラルに関わる指導を行う。 ・必要や要望に応じた研修の実施や有用な情報の提供に当たる。 ・授業や特別活動での図書室利用を推進する。 ・県立学校学習ネットワークシステム及びe-AKITAの管理・運用、各種視聴覚機器の維持・更新に当たる。		
⑥	具体的な取組状況	・生徒会の協力を得て、Chromebookの適正な使用について、教室内に掲示し、注意喚起がなされた。 ・各学年で先生方が声を掛け合うことで利用が促進されている。 ・図書の購入希望を広く呼びかけ、蔵書の更新を図った。 ・ネットワーク管理者と連携し、学習系ネットワークの統合を済ませた。また、統合型学校支援システムの導入が進められている。		D
⑦	達成状況	・Googleの各サービスの利用については目標を達成している。 ・蔵書の更新を順調に進んでいるが、利用向上に至っていない。 ・授業や校務において、ICTの活用が高まっている。		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) ・アンケート結果から図書館利用についてはより一層の利用促進が必要であり、イベントを開催するなど、読書に親しむ仕掛けづくりが求められる。	C
↑ 評価基準 ↓ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ・本を読むことは良いことである。PCとは違う。 ・読書の楽しさを生徒に伝えて欲しい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・アンケート結果から図書館利用についてはより一層の利用促進が必要であり、イベントを開催するなど、読書に親しむ仕掛けづくりが求められる。 ・インターネットの時代求められる、読書でしか得られない経験を生徒に伝えるための具体的な取り組みが必要である。		A